

市立加西病院 新病院基本構想・基本計画【概要版】

1 はじめに

- 令和6年1月に「市立加西病院 新病院に係る基本構想・基本計画検討委員会」を設置し、中長期的視点から加西市として、新たな建設地での建替えの方向性に立って、持続可能な地域医療の体制と提供を図る計画を確立することを目的に検討を進めてきました。
- 本書は、当院が新病院で目指す姿を示した基本構想と、新しい建設予定地での病院整備計画及び事業収支シミュレーションを含めた基本計画を一体的に策定しました。

2 当院を取り巻く環境

- 人口推移：2025年以降、生産年齢人口(15～64歳)のみでなく、高齢人口(65歳以上)も減少していく見込みです。高齢化率は、2035年頃から約40%となります。
- 外来需要：75歳以上の需要は2030年がピークですが、全体としては2020年以降減少傾向です。
- 入院需要：2035年がピークで、65歳以上患者が約7割を占めます。
- 医療連携：北播磨総合医療センターを主として、兵庫県立はりま姫路総合医療センターや加古川中央市民病院等と医療圏を超えた広域連携が進んでいます。

3 当院の現状と課題

- 医師確保：2022年度から減少傾向にあり、2023年度末には25名体制(研修医を除く)となっており、2021年度の36名から11名減少している状況です。
- 経営状況：医師減少の影響もあり、2022年度以降、悪化傾向にあり、2023年度には経常収支は約▲2.47億円となっています。
- 施設状況：当院は築後50年が経過し、建物や設備の老朽化・狭隘化が進んでいます。また、早期の耐震化や地域の災害拠点としての機能を併せ持つことが必要となっています。

4 新病院の基本方針

基本理念

ここは 病めるものが 心を安らげ 信じ 喜べる 休息の場である

基本方針

地域住民の健康を守り、心安らぐ病院づくりを目指します
患者に寄り添った、安全、良質、最善の医療を提供します
医療・介護・福祉の地域連携を推進し、切れ目のない医療を提供します
働きがいのある職場環境を整え、教育、研修で良き医療人を育成します
健全経営で活力ある持続可能な病院運営を行います

新病院の目指す姿

- 地域包括ケアシステムにおいて医療の中心的役割を担います。
- 加西市民から医療保健全般で信頼される地域多機能型病院となります。
- 地域、患者、働くものにとって魅力的な病院であり続けます。

医療提供体制

- 基幹病院や周辺診療所との連携を強化し、急性期機能、サブアキュート・ポストアキュート機能を提供します。

急性期	<input type="checkbox"/> 救急搬送受入(軽～中等度)、手術対応 ※一部診療科での提供 <input type="checkbox"/> その他、高度急性期病院に搬送するか判断がつかない患者の救急搬送受入
サブアキュート	<input type="checkbox"/> かかりつけ医で対応が困難な患者への入院対応 <input type="checkbox"/> 在宅や介護施設等で療養中の患者の状態が悪化した場合の受入対応
ポストアキュート	<input type="checkbox"/> 基幹病院や専門病院で高度・専門的な治療を行った患者への、継続的な治療、ケア、リハビリテーションなどの機能を提供 (診療所など地域の医療機関・施設と連携・役割分担し、対応する。)

- 救急医療体制については、基本的には、初期救急の機能を担い、在宅医療の対象患者、高齢者の救急受け入れに対応します。
- 在宅医療については、医師会と連携し、在宅療養支援診療所の後方支援を強化していきます。また、訪問看護ステーションを今後も充実させていき、市立病院として担うべき地域の希求度の高い在宅医療を提供していきます。
- 5疾病6事業及び在宅医療への対応方針及び周辺病院との機能分担について、基幹病院や診療所等との連携を進め、以下のように想定します。また、ICTや医療DXを活用した医療連携体制の構築を目指します。

機能	周辺基幹病院の機能 (北播磨総合医療センター、加古川中央市民病院、県立はりま姫路総合医療センター等)	当院の主要機能	基幹病院等と連携して対応	
がん	がんの診療拠点	がん一般標準治療		基幹病院等と連携して対応
		外来化学療法		
		外来対応		
脳卒中	手術療法の強化	緩和ケア機能		
心筋梗塞	手術療法の強化	回復期・維持期		
救急医療	地域で二次～三次救急の完結	一部初期救急・回復期・維持期		
小児医療	小児救急	初期救急		
精神医療 認知症対応	兵庫県認知症患者医療センター	在宅医療・高齢者の救急受入対応		
在宅医療支援	在宅療養後方支援	一般外来対応		
		認知症患者の早期発見		
		在宅療養支援診療所の後方支援		

メディカルタウン構想

- 加西市らしいコンパクトシティ方針に基づいた新病院建設を進めます。
- 加西市の都市計画において、将来都市構造に位置付けた新都市拠点の中心地として医療機能・福祉機能の核を担っていくメディカルタウン周辺への農産物直売所・商業施設の立地誘導を図り、住民の健康づくりと生活利便性の向上に資する都市機能の充実を図る取り組みを進めます。

“いつまでも安心して暮らせる加西” そんなまちを支え続ける存在に。



5 病床数・標榜診療科設定

病床数

[現病院] 199床 >>> [新病院] 136床

急性期 94床 急性期 52床
回復期 99床 回復期 80床
第二種感染症 6床 第二種感染症 4床

- 総病床数：医療需要の減少、地域医療構想を踏まえ、現状からダウンサイジングし、回復期病床の割合を増やします。
- 急性期：北播磨医療圏内で過剰であるため、DPC対象病院を最低限維持できる範囲で削減します。
- 回復期：現在の入院患者数に対応できる病床規模を確保します。
- 感染症：第二種感染症病床を4床整備します。

標榜診療科

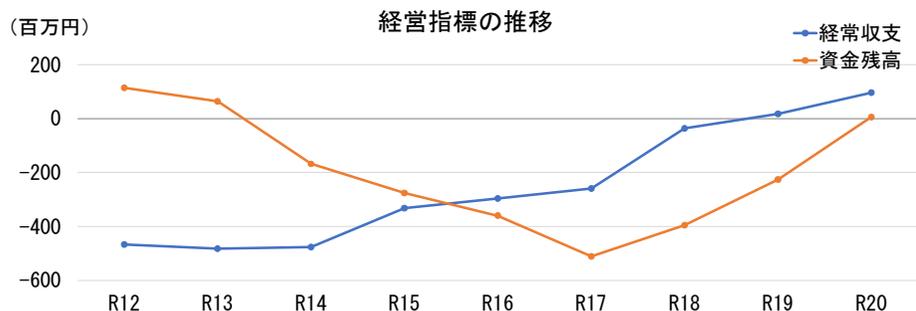
- 新病院では、現在標榜する科目の継続を基本方針とします。
- ただし、今後の医師確保状況等に応じ、適切な診療科設定を継続して検討していきます。
- 入院対応は、内科系、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科（褥瘡対応）を想定します。

内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	外科
整形外科	耳鼻咽喉科	産婦人科	小児科	泌尿器科
眼科	精神科	皮膚科	脳神経内科	放射線科
麻酔科	リハビリテーション科			

7 概算事業費及び事業収支シミュレーション

- 新病院建設に係る概算総事業費は、現時点で、約130億円を見込みます。
- 総事業費については、基本設計、実施設計の中で、精査を進め、可能な限り圧縮することに努めていきますが、昨今の情勢に伴う建設費用の変動により増加する可能性があります。
- 経常収支について、開院後徐々に安定化していき、令和19年度（2037年度）に黒字となる見込みです。
- 資金残高については、現在の想定では、建築工事に係る企業債償還が始まる令和14年度（2032年度）に資金不足となり、その後、令和19年度（2037年度）まで不足が続いた後、徐々に回復していく試算となっています。

区分	概算金額	備考
土地関連費	8.6億円	用地買収費、用地測量費、造成工事設計・監理費、造成工事費等
設計監理費	4.7億円	建築工事基本・実施設計費、工事監理費
建築工事費	99.4億円	建築工事費、外構整備費等
機器等整備費	15.9億円	医療機器整備費、情報システム整備費、備品購入費
その他の経費	1.6億円	基本構想・計画業務委託費、開院支援業務委託費、移設費等
計	130.2億円	



6 整備計画

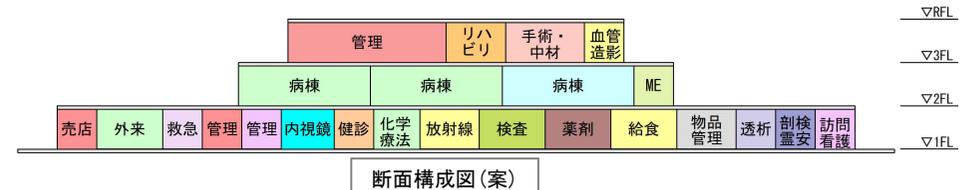
敷地概要

- 所在地：兵庫県加西市豊倉町
- 敷地面積：約47,600㎡
- 都市計画区域：都市計画区域内
- 地目：田、畑、池、山林、原野
- 用途地域：市街化調整区域
- 容積率：200%
- 建ぺい率：60%



建物概要

- 建物規模：1床当たり90㎡を目標面積とし、延床面積は約12,240㎡を想定します。
- 階数：建設可能なスペースや機能連携、病棟の変性を鑑み、階数は3階建てとします。
- 構造：耐震構造
- 病棟数：合計3病棟（急性期56床（感染症病床4床含む）×1病棟・回復期40床×2病棟）
- 駐車場：合計約550台（患者用約260台、職員用約290台）



整備スケジュール

- 現時点でのスケジュール想定は以下の通りで、令和12年度（2030）年度の開院を目指します。

R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
	基本構想・基本計画	基本設計・実施設計	造成工事	新館工事			移転 開院